

I 研究開発の課題

1 学校の概要

(1) 学校名、校長名

- ①学校名 島根県立出雲高等学校
- ②校長名 真玉 保浩

(2) 所在地、電話番号、FAX番号

- ①所在地 島根県出雲市今市町1800
- ②電話番号 0853-21-0008
- ③FAX番号 0853-22-7855

(3) 課程・学年・学科別生徒数、学級数及び教職員数

①課程・学科・学年別生徒数、学級数（平成30年4月10日現在）

課程	学科	第1学年		第2学年		第3学年		計	
		生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
全日制	普通科	267	7	275	7	278	7	820	21
	(文系)			(13 2)	(3)	(14 2)	(4)	(27 4)	(7)
	理数科	37	1	40	1	39	1	116	3
計		304	8	315	8	317	8	936	24

②教職員数（平成30年4月10日現在）

校長	教頭	教諭	養護 教諭	講師	養護 助教諭	非常勤 講師	実習 助手	ALT	事務 職員	学校 司書	計
1	2	54	1	6	1	10	2	1	5	1	84

2 研究開発構想名

「自立」と「協働」により、地域・社会の核となるグローバル・リーダーの育成

3 研究開発の目的・目標

(1) 目的

- ①論理的思考力や国際社会に通用するコミュニケーション能力などの汎用的能力と、生まれ育った地域や国際社会に関する、幅広く、深い教養を備えた、「自立」した個人を育てる教育プログラムの開発
- ②他者との「協働」により、新たな価値あるものを創出し、国際社会に発信できる人材を育てる教育プログラムの開発
- ③世界の持続的な発展に向け、「自立」と「協働」により創造的提案をし、地域・社会の核となる、グローバル・リーダーとしての資質・能力を高める教育プログラムの開発

(2) 目標

- ①・客観的事実に基づきながら、論理的に考え、他者の意見を取り入れながら自らの意見を構築できる力を養う。

- ・言語や文化の異なる人々と、英語を用いてディスカッションできる高度なコミュニケーション能力を養う。
- ・現代の国際社会を、その構成要素である「人間」の視点で捉え、「社会」「自然」「ひと」の三つの領域について、講義、体験的学習等を通して深く理解させる。
- ②・自分とは異なる生活環境に生まれ育った、多様な背景を持つ人物の意見を受け入れると共に、自らの考えを伝え、相手の立場に立って理解する姿勢を育む。
- ・自分とは異なる意見を批判的に評価しながら、ディスカッションを通して協働的に意思決定していく高度なディベート力を養う。
- ③・生まれ育った地域で培われた多種の経験を踏まえながら、国際社会の現状を客観的に分析し、国際社会が抱える様々な課題を発見する力を養う。
- ・海外の高校生との交流や近隣の大学院生・大学生・留学生との交流を通して、「社会」「自然」「ひと」の三つの領域を融合し、世界の持続的な発展に向け、創造性のある提案をできる力を養う。
- ・国際社会を舞台とし、他者と協働しながら新たな展望を切り開き、予測困難な国際社会を自らの力で生き抜く、グローバル・リーダーとしての総合力を養う。

4 研究開発の概要

本校の現状における教育課題は、生徒のグローバルな視野の拡大であり、その課題を解決するために、「自立」した個人の能力育成と、「協働」的な研究活動による、グローバル・リーダー育成プランを考え、実践してきた。

課題研究のテーマとして『世界の持続的な発展に向けた創造的提案～国際社会に向けた出雲からの発信～』を掲げ、「社会」「自然」「ひと」の三つの切り口からアプローチしている。生徒はゼミに分かれ、専門性の高い大学教員、大学院生や留学生等からの指導・助言を通して研究成果をまとめ、同時に、個人の力を養うための質の高い英語教育・教養教育、そしてディベート（一部は英語ディベート）などの協働的な学習に取り組む。さらには、海外研修等における海外の高校生との意見交換、及び海外の高校からの留学生受け入れ等を通して、自分とは異なる他者を受容する姿勢を育む。

このような教育プログラムを通して、「地域・社会の核となるグローバル・リーダー」を育成できるものとする。

5 研究開発の対象

第1学年普通科生徒及び第2・3学年普通科文系クラス生徒を対象とする。

6 研究開発の内容・方法

(1) 研究開発の仮説

ア 国際的な社会課題をテーマとした専門性の高い講義、体験的学習、課題研究、ディベート演習及び質の高い英語学習を行うことで、論理的思考力や国際社会に通用するコミュニケーション能力などの汎用的能力と、生まれ育った地域や国際社会に関する、幅広く、深い教養を身に付けさせることができるのではないかと。

イ 課題研究やディベート演習において、協働的な学習を行うことで、答えの見えない課題に対して粘り強く追究する姿勢や新たな価値あるものを生み出す創造性を育むことができるのではないかと。

ウ 海外研修や双方向通信システムの利用による海外の高校生等との交流や、国内の大学院

生・大学生・留学生との意見交換を行うことで、研究成果を国際社会へ発信できる力を養うとともに、将来グローバル・リーダーとして活躍する意欲や使命感を育むことができるのではないかと。

(2) 研究開発の内容

① 課題研究の取組

現代の国際社会を、その構成要素である「人間」の視点で捉え、人間が築いてきた「社会」、人間を取り巻く「自然」、そして人間そのものである「ひと」の三つの切り口から、『世界の持続的な発展に向けた創造的提案～国際社会に向けた出雲からの発信～』を統一テーマとして、研究活動を進める。

生徒の希望により、以下の a～c の三つのゼミに分かれ、ゼミ別の大テーマについてグループごとの課題意識に基づいて小テーマを設定し、研究に取り組む。

- a 国際政治・経済ゼミ（人間が築いてきた「社会」という切り口からのアプローチ）
テーマ：『世界の国々に関わり、支え合う、持続的な平和社会の構築に向けて』
- b 環境・エネルギー・食農ゼミ（人間を取り巻く「自然」という切り口からのアプローチ）
テーマ：『世界の人々の持続的な暮らしを支える、環境・エネルギー・食農のこれから』
- c 地域文化・多文化共生ゼミ（人間そのものである「ひと」という切り口からのアプローチ）
テーマ：『多文化の中に生きる人間と、多文化共生の先に見える持続的な共存社会』

研究開発単位	対象学年	研究開発の内容	仮説
SGベーシックセミナー	1年 (普通科)	生徒の希望により、あらかじめ「国際政治・経済」「環境・エネルギー・食農」「地域文化・多文化共生」の3つのゼミに分かれ、以下の学習を行う。 (1) ゼミごとのテーマに関する講義 (2) ゼミごとのテーマに関する体験的学習 (3) ゼミごとのテーマに関する課題レポート	ア
学校設定科目「SG探究」における課題研究	2年 (普通科)	第1学年で分かれた3つのゼミごとに、以下の学習を行う。 (1) 研究テーマに関するゼミ別講義 (2) グループごとの研究テーマの検討 (3) 文献・論文・資料等の読解・分析、各種調査活動 (4) ゼミ別集会 (5) ゼミ別中間発表会 (6) 研究レポート・発表用資料作成 (7) 研究成果発表会（ゼミ別、校内） (8) 振り返り	アイ
学校設定科目「SG探究」における地域・社会と関わりながら学びを深める活動	3年 (普通科)	第2学年で課題研究に取り組んだグループごとに、以下の学習を行う。 (1) 課題研究振り返り、発表内容についてのグループ討議	イウ

		<ul style="list-style-type: none"> (2) 発表用資料作成 (3) 島根大学におけるグローバル化社会をテーマとした講義・演習 (4) 島根大学在籍の留学生、外国人教員へのプレゼンテーション及びディスカッション (5) 出雲市職員へのプレゼンテーション及びディスカッション (6) 出雲市副市長へのプレゼンテーション及び懇談会 (7) 振り返り 	
スカイプを利用した海外の高校生との意見交換	2年 (普通科)	希望者について、課外の時間に以下の学習を行う。 <ul style="list-style-type: none"> (1) 海外研修で交流する高校とのスカイプを利用した英語による意見交換 (2) 課題研究の内容についての英語に発表の準備 	ウ
サンタクララ海外研修における研究成果発表及び意見交換	2年 (普通科)	サンタクララ市（アメリカ合衆国）を訪問する海外研修として、以下の学習を行う。（研修期間：8日間） <ul style="list-style-type: none"> (1) 参加生徒募集及び選考、事前研修 (2) 現地ウィルコックス高校における課題研究成果発表及び意見交換、授業等への参加 (3) 現地の大学、コミュニティカレッジへの訪問、授業等への参加 (4) 現地のグローバル企業訪問 (5) サンタクララ市役所訪問（副市長との意見交換） (6) サンタクララ市議会訪問（議員等への挨拶及び意思表示） (7) 現地の研究施設等見学 	ウ

②課題研究以外の取組

研究開発単位	対象学年	研究開発の内容	仮説
学校設定科目「SG探究」におけるディベート演習	2年 (普通科)	課題研究を行うための基礎力養成演習として、以下の学習を行う。 <ul style="list-style-type: none"> (1) 論題に関する意見の集約と調査活動 (2) 論理展開の立案と立論・反駁原稿等の作成 (3) ディベートリハーサル (4) クラス内ディベート大会 	ア イ
SGパワーアップセミナー（講演会）	全学年	グローバル企業の経営者、世界の最先端で活躍する研究者等による講演会を聴講する。	ア
高度な英語コミュニケーション能力を育成するための取組	1・2年	「コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ」「英語表現Ⅰ・Ⅱ」において、教科書の各単元のまとめと発展の活動として以下の学習を行う。 <ul style="list-style-type: none"> (1) コミュニケーション英語Ⅰ：ミニプレゼンテ 	ア

		<p>ーション、意見交換、等</p> <p>(2) コミュニケーション英語Ⅱ：英語文献（新聞、雑誌記事等）の読解、意見交換、等</p> <p>(3) 英語表現Ⅰ・Ⅱ：英語文献（新聞、雑誌記事等）の読解、英語ディベート、英語スピーチ及びディスカッション</p>	
--	--	---	--

③グローバル・リーダー育成に関する環境整備、教育課程課外の取組

研究開発単位	対象学年	研究開発の内容	仮説
英会話部の活動の充実	英会話部 所属生徒	<p>教育課程課外の取組として、以下の活動を行う。</p> <p>(1) 他校とのスカイプを利用した英語ディベート練習試合等を通じた交流と相互発展</p> <p>(2) 英語ディベートセミナーの開催</p> <p>(3) 島根県高校生英語ディベート大会への参加</p> <p>(4) 全国高校生英語ディベート大会への出場権獲得と参加</p> <p>(5) 島根県内での各種英語スピーチコンテストへの参加</p>	イ
各種リーダー研修	2年 (普通科)	<p>希望者について、課外の時間に以下の学習を行う。</p> <p>(1) 地域のNPO法人主催の多文化共生イベントにおける企画・運営のボランティア活動</p> <p>(2) 島根大学短期留学生に出雲大社を英語で案内するボランティア活動</p> <p>(3) JICA中国主催「高校生国際協力体験プログラム」への参加</p> <p>(4) 文部科学省、筑波大学主催「2018年度スーパーグローバルハイスクール全国高校生フォーラム」への参加</p> <p>(5) 島根大学法文学部山陰研究センター、日本地域経済学会主催 地域公開シンポジウム「人口減少時代の地域再生」への参加</p> <p>(6) JICA中国主催「SDGsってなに？～2030年の山陰を語ろう～」への参加</p> <p>(7) 関西学院大学、大阪大学、大阪教育大学主催「全国スーパーグローバルハイスクール課題研究発表会【SGH 甲子園 2019】」への参加</p>	ウ
英語4技能育成プログラム	全学年	<p>希望者について、課外の時間に以下の学習を行う。</p> <p>(1) 学習ビデオによるインプット学習（40分）とスカイプを利用したネイティブの講師とのマンツーマンレッスン（25分）</p> <p>(2) 全12回～15回のプログラム</p>	ア

各種コンクール・コンテストへの参加	全学年	(1)「島根県国際教育英語弁論大会」への参加 (2)「島根県『高校生の主張』英語スピーチコンテスト」への参加 (3)「島根県国際教育日本語弁論大会」への参加 (4)「ヘルンをたたえる青少年スピーチコンテスト」への参加 (5)「国際協力エッセイコンテスト」への応募	—
S G 教員研修会	全教員	課題研究の指導について、教員が集まっての研修及び専門家を招いた講義・演習を行う。	—
生徒のグローバルな視野を広げる各種啓発活動	全学年 全教員	生徒、教員のグローバルな視野を広げることを目的に、広報誌『GLOBAL REPORT』を発行する。	—

(3) 研究開発の実施計画

平成30年度（第5年次）

5年次では、5年間の研究指定終了後も持続可能な教育システムであるかどうかに着目した上で評価を行い、各プログラムの完成を目指すと同時に、この研究開発によって得られた成果を各教科指導に生かすことを重点課題とする。

(4) 研究開発の評価

①生徒の変容

○論理的思考力を測る客観テスト

- ・評価対象者：第1・2学年
- ・評価の時期：第1・2学年ともに2月
- ・評価方法：課題研究実施前と実施後の数値を比較することにより、「課題研究」をはじめとした一連のプログラムにより、生徒の論理的思考力にどのような変容が見られたか評価する。

○英語コミュニケーション能力を測る客観テスト

- ・評価対象者：全学年
- ・評価の時期：第1学年は6月と12月、第2学年は12月、第3学年は6月
- ・評価方法：GTECスコアの推移により英語コミュニケーション能力にどのような変容が見られたか評価する。

○意識調査

- ・評価対象者：全学年
- ・評価の時期：第1学年は毎年度5月及び1月、第2・3学年は毎年度1月
- ・評価方法：国際的な社会課題への理解と興味・関心、その解決に向かう使命感、学習への意欲・態度等についてアンケートを実施し、生徒の意識にどのような変容が見られたか評価する。

②教員の変容

○意識調査

- ・評価対象者：本校に在籍するすべての教育職員
- ・評価の時期：毎年度1月

- ・評価方法：S G Hの事業を通しての指導方法等の改善に向けた意識、S G H事業の取組への関わり方、教員間の連携・協力体制構築についての意識等についてアンケートを実施し、年度ごとに教員の意識にどのような変容が見られたか評価する。

③保護者の変容

○意識調査

- ・評価対象者：本校在籍の生徒すべての保護者
- ・評価の時期：毎年度1月
- ・評価方法：S G H事業に対する賛否、子どもの様子を通してのS G H事業に対する理解、S G Hの教育プログラムや本校の指導体制についての意識、国際的な社会課題に対する興味・関心等についてアンケートを実施し、年度ごとに保護者の意識にどのような変容が見られたか評価する。

④その他

○S G H研究成果発表会の開催

- ・開催時期：毎年度2月
- ・内容：普通科第2学年が行う「課題研究」の発表会（優秀作品についてはステージ発表、その後全作品についてポスター発表）を行い、各関係者からの意見をうかがう。また、ポスター発表の際、聴衆生徒からのコメントシールにより、研究内容に対する意見をうかがう。

○運営指導委員会の開催

- ・開催時期：毎年度9月～10月、2月の2回
- ・内容：半期ごとに各プログラムを公開するとともに、事業推進状況を報告し、運営指導委員から指導・助言を仰ぐ。

○学校評議員、保護者、教職員による学校評価

- ・評価の時期：毎年度9月、1月の2回
- ・内容：学校の教育活動全体の評価の中に、S G H事業に関する評価項目を設け、意見をうかがう。

7 研究開発組織の概要

(1) 運営指導委員会

本校におけるSGH事業の運営に関し、専門的見地から指導、助言を行う。

氏名	所属・職名（平成30年4月現在）
赤坂 一念	島根県立大学総合政策学部教授
大竹 敏一	株式会社出雲村田製作所管理部人事課シニアマネージャー
神田 圭子	出雲市総合政策部政策企画課文化国際室長
岸 征男	キシ・エンジニアリング株式会社代表取締役会長
中村 宣郎	中村ブレイス株式会社代表取締役社長
湯浅 邦弘	大阪大学大学院文学研究科中国哲学研究室教授

(2) 校内組織

① SGH推進委員会

本校におけるSGH事業の運営に関し、その全体計画立案、各教育プログラムの進捗管理並びに事業全体及び各教育プログラムの評価等について審議し、全校体制で行う本事業推進の要としての役割を担う。

教頭（2名）、教務主任、キャリア教育部主任、理数科主任、各学年主任、国語科主任、地歴・公民科主任、数学科主任、理科主任、英語科主任、教育開発部員で構成する。この内、教頭（1名）が委員長となり、教育開発部員が事務局となる（この内、教育開発部長が事務局長となる。）。

② 教育開発部

本校におけるSGH事業の運営に関し、全体計画案、各教育プログラムの実施案、並びに全体及び各教育プログラムの評価案を作成し、SGH推進委員会に提案する。また、SGH推進委員会で決定した内容の実施・運営を行うとともに、経理事務処理等を行う。

氏名	職名	教科	役割
高橋 尚彦	教頭	理科（生物）	全体総括
大賀 学	教諭	理科（生物）	教育開発部部长
岩田 史樹	教諭	英語科	教育開発部副部长
須谷 昌之	教諭	理科（生物）	教育開発部員
田中 芳美	教諭	地歴・公民科（世界史）	教育開発部員
宇佐美 朝士	教諭	地歴・公民科（世界史）	教育開発部員
高橋 賢一	教諭	理科（化学）	教育開発部員
砂流 苑実	教諭	英語科	教育開発部員
井上 太陽	教諭	理科（物理）	教育開発部員
田村 尚子	教諭	英語科	教育開発部員
飯野 卓	講師	地歴・公民科（日本史）	教育開発部員
原 有紀	講師	英語科	教育開発部員
滋野 紗世子	嘱託職員		海外交流アドバイザー
小原 明美	嘱託職員		経理事務担当

Ⅱ 研究開発の経緯

<研究開発の内容>

- ①課題研究の取組 ②課題研究以外の取組
③グローバル・リーダー育成に関する環境整備、教育課程課外の取組

<研究開発の経緯>

期 日	内 容	対象生徒	内容
5月14日	SG教員研修会①		①
5月21日	SGパワーアップセミナー①	全学年全員	②
5月24日～29日	クラス内ディベート大会	2年普通科全員	②
6月16日	GTEC	1・3年全員	③
7月12日	課題研究ゼミ別講義	2年普通科（文系クラス）全員	①
7月16日	出雲大社通訳ボランティア活動	1・2年希望者	③
7月26日・27日	島根大学におけるグローバルセッション	3年普通科（文系クラス）全員	①
7月29日	JICA国際協力体験プログラム	2年普通科希望者	③
9月 3日	校内ディベート大会	2年代表者	②
9月10日	課題研究ゼミ別集会	2年普通科全員	①
9月24日	SG教員研修会②（ゼミ別教員会議①）	アドバイザー教員全員	①
10月11日	課題研究ゼミ別中間発表会	2年普通科（文系クラス）全員	①
10月15日	SGベーシックセミナー①	1年普通科全員	①
10月15日	SG教員研修会③（ゼミ別教員会議②）	アドバイザー教員全員	①
10月25日	島根県高校生英語ディベート大会	英会話部代表者	③
11月 1日	SGパワーアップセミナー②	1・2年全員	②
11月12日	SGベーシックセミナー②	1年普通科全員	①
11月12日	SG教員研修会④		①
12月 1日	GTEC	1・2年全員	③
12月 9日	島根大学公開シンポジウム	2年普通科（文系クラス）代表	①③
12月11日	SGベーシックセミナー③	1年普通科全員	①
12月15日	SGH全国高校生フォーラム	2年代表者	③
12月15日・16日	全国高校生英語ディベート大会	英会話部代表者	③
1月11日	SGパワーアップセミナー④	1・2年希望者	②
1月10日	論理的思考力客観テスト②	1・2年全員	③
1月19日～26日	サンタクララ海外研修	2年普通科希望者	①
1月31日	課題研究ゼミ別研究成果発表会	2年普通科（文系クラス）全員	①
2月 6日	SGH研究成果発表会	1・2年全員	①②③
2月 6日	SGパワーアップセミナー④	1・2年全員	②
2月 9日	JICA中国主催イベント	2年普通科（文系クラス）代表	①③
3月23日	SGH甲子園	2年代表者	①③

※この他、年間を通して、学校設定科目「SG探究」・スカイプを利用した海外の高校生との意見交換・高度な英語コミュニケーション能力を育成するための取組・英語4技能育成プログラムの各教育プログラムの実施、各種コンクール・コンテストへの参加、生徒のグローバルな視野を広げる各種啓発活動。